

# 牛久：学校周辺に見る自然

第7号 牛久二小

2020年4月18日発行

## < 春の校庭 ～②雑草と虫・アブラナの仲間～ >

皆さん、こんにちは。牛久二小の春の校庭、今回から「雑草とそこに来る虫たち」です。まずは、アブラナの仲間から。



セイヨウアブラナ (左上) と、その蜜を吸うハチ (右)。セイヨウカラシナ (左下)。

アブラナの仲間には、よくハチやチョウが蜜を吸いに来たり、ハナアブの仲間が花粉をなめに来たりしています。実も、特徴ある形をしていますね。さて、セイヨウアブラナの花では、花弁は何枚でしょう？ おしべは何本？ 写真では分かりにくいかもしれませんが、花弁は4枚が十文字に並んでいます。雄しべは長いのが4本、短いのが2本の計6本、そして雌しべがまん中に1本あります。雌しべのつけ根の方に実のもとになる部分があるので、花1つにつき実が1つできます。体育館のわきには、よく似たセイヨウカラシナが咲いていました。同じく花弁は4枚ですが、十文字というよりH字形に並びます。そして、葉がセイヨウアブラナでは茎を抱くようについているのに対し、セイヨウカラシナでは柄でついています。



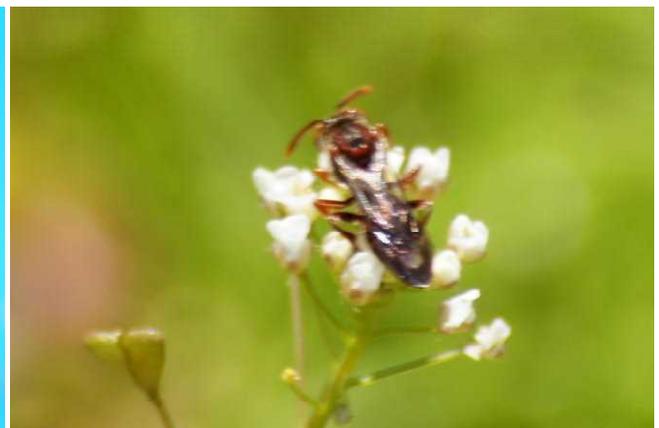
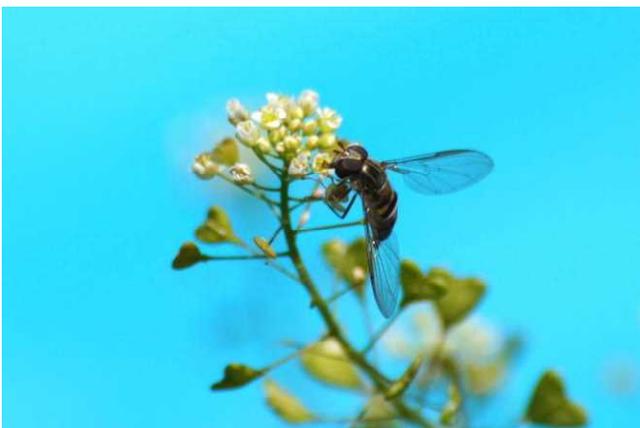
いまは使われてないビオトープに行くと、同じく花弁4枚の白い小さな花がたくさん咲いていました。おしべは6本、実の形も似ています。これは、タネツケバナ。市内の田んぼのあぜや、湿ったところでよく見られます。花の色も大きさも違いますが、やはりアブラナのなかまなのです。

タネツケバナ (左) とそのアップ (右)。



グランドのすみには、これとよく似ているけれど、実が茎に接するような角度でついていて、花の形もちょっと違う草が生えていました。花弁は4枚ですが、雄しべは4本が多く、5本、6本の花もあります。これはミチタネツケバナといって、やや乾燥した所に生えます。花や実がついているときに、タンポポのようなべたっとした葉が広がっているのも特徴の一つ。

ミチタネツケバナ(左)とそのアップ(右)。



ナズナ(左上)と、そのアップ(右上)。花粉をなめるホソヒラタアブ(左下)と、蜜を吸うキマダラハナバチ(右下)。

最後に、ほとんどの学校の校庭に生えているナズナ。やはり花弁4、雄しべ6、雌しべ1ですね。こんな花が咲いていたら、アブラナのなかまではないかと考えて、名前調べなどするとよいでしょう。こんな小さな花にも、ホソヒラタアブが来て花粉をなめたり、キマダラハナバチが蜜を吸ったりしていました。モンシロチョウが卵を産んでいることもあります(モンシロチョウの幼虫は、アブラナの仲間の葉を食べますね)。なお、この日は風が強くてうまく写真が撮れなかったので、ミチタネツケバナとそのアップ、タネツケバナとナズナのアップは以前の写真を使いました。【理科支援員：宮内】